

令和元年度 南国市立日章小学校 学校評価書

学校教育目標		心豊かにたくましく生きる日章の子		研究主題	主体的に考え、学び合う子どもを育てる ～身の回りの事象に対して、自ら気づき、考え、行動できる子どもを目指して～		
大項目	中項目	評価指標	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
学力向上	規範意識の育成	① 学習規律の徹底(持ち物・聞き方・話し方・言語わざ) (言語わざの活用率80%以上) ② 掃除・整理整頓ができる。 (児童アンケート肯定群:85%以上) ③ 日章スタンダードの定着率90%以上	○児童会活動を推進し、自ら自律できるような取組の支援。 ○「挨拶や返事はよくできていますか」児童 92% 保護者 60%	B	□教員自身が言葉を意識して言語環境を整える。 □児童の自主性や自律性、リーダー性を育てていく。	A ・昨年度の反省点を改善策に生かし、取組を推進した成果がしっかり出た年であったと考えます。 ・児童たちの自主性を伸ばす取組は素晴らしいです。今年のような取組をもう一年いや一年と言わず続けて頑張ってみましょう。楽しみです。 ・先生方の研修の成果がストレートに児童に反映されていると思います。	
	授業改善	① 学力調査の正答率を上げる。 (全国平均・県平均 +5p以上) ② 授業改善のための3視点(教材研究、深い学び合い、振り返り)を重視した授業を行う。 基礎・基本が未定着な児童を減少させる。 (C評定10%以下)	○教材研究をしっかりと行い、振り返りを重視した授業展開を全学年で統一して行う。 ○学力調査結果から児童の現状や課題を明らかにして、授業改善に生かす。⇒全国学テ:国+15p 算+18P	A	□児童の主体性を育成するために探究的な学習を展開する。 □対話的な学びとなるように言語活動を意識する。 □学力調査結果を全教員で分析し、調査問題の授業活用を計画的に行う。		
	家庭学習	① 家庭学習時間の到達目標達成率90%以上を目指す。(1年20分～6年70分) ② 家庭学習習慣の定着(家庭学習の手引き・自学ノート)	○学習の手引きを配布するとともに家庭学習の内容や方法について児童に指導する。 ○家庭学習強化週間を設ける。 目標時間達成率 73%	B	□学習の手引き(まなブック)について、定期的に児童に指導し、授業活用を行う。 □家庭への啓発を図り、理解や協力を求める。 □生活習慣の確立について啓発を図る。		
	英語のコミュニケーション力の育成	① 児童の意欲を高める単元構成を考えた教材開発 ② 「英語が楽しい」90%以上 ③ 5・6年生標準学力調査+10P。	○他教科等とカリキュラムマネジメントした単元開発に努める。 ○5・6年「英語の授業が好き」92%	B	□児童が身近に感じ楽しめる英語の学習活動を取り入れ、興味関心を高める。 □教員の英語力を高めるための研修を充実させる。		
生徒指導	道徳教育の推進	① 新教材の実施、評価を行う。 ② 道徳の校内研修を実施する。 ③ 道徳参観日等、保護者への発信。	○道徳の評価の校内研修を実施する。 ○道徳参観日、人権教育参観日を実施	B	□教員の道徳力を高めるための研修を充実させる。 □参観日等で保護者への啓発を図る。	A ・上級生にリーダー性が育ちやさしい心が芽生えれば日々の子どもたちの学校生活を含めてすべて精神的に児童の生活はすごく安心すると思えます。よい取組ができ地域住民としても心から安心できました。	
	いじめ・不登校・問題行動党への対応	① 居場所のある温かい学級づくりに取り組む。 ② 異学年交流の実施年間20回以上 ③ 毎月の校内支援委員会及び週 1 回の児童連絡会を行う。	○集会活動を活性化(スマイル委員会) ○「日章スマイルプロジェクト」の推進 ○月2回以上の異学年交流 ○「自分にはよいところがある」91%	B	□自主的に「日章スマイルプロジェクト」を運営できるようにする □上級生に優しい心やリーダー性を育て、下級生に安心感を養う。		
	温かい学級づくり	① QUアンケートを 2 回実施し、学級での満足群70%以上をめざす。 ② 個別支援計画を作成し、事例研究を実施する(学期に1回以上)。 ③ 「学校が楽しい」90%以上	○SC と連携し、支援を要する子に丁寧に関わる。 ○ QU 満足群70% ○「学校が楽しい」92%	A	□発達障害への理解や、ユニバーサルデザインの授業づくりについて研修を充実させる。 □子ども主体の自主的な活動を推進する。		
家庭・地域・学校の連携	保幼小連携の推進	① スタートカリキュラムの実施。 ② 園児、児童の計画的、効果的な交流。 ③ 職員間の交流を充実する。 ④ 保幼小連絡会及び香南ブロック連絡会を定期的に開催する。	○アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムを実施する。 ○保幼小・小小・小中の教員間の連携意識を高める。 ⇒(保小交流授業 8回)	B	□アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムを全教員で共有する。 □保小、小小、小中間での交流授業や共同・共通した取組を増やし、小1プロブレムや中1ギャップの改善に努める。	B ・よく連携ができ、小1プロブレムや中1ギャップ問題に積極的に取り組まれた意気込みに敬意を表します。なんといっても「学校が楽しい」と感じるのが90%台は丁寧な取組の結果でありましょう。 ・次年度に向けてさらに本年度秋ごろから5年生を中心にして高まった地域の高齢者を巻き込んだ災害についての避難訓練の具体策づくりに大いに期待しています。	
	信頼される学校づくり	① 学校・学級便りを定期的に発行する。(学校便り:月1回以上) ② 授業に地域人材や地域教材を活用する。(地域コーディネーターの活用) ③ 学校評価アンケート(年間2回)の肯定的評価80%以上を目指す。	○生活・総合等の授業で地域の教材や人材の活用が広がり、地域との連携が強化された。 ○日章あゆみサミット委員との協議を学校経営の改善に生かす。 ○学校評価アンケート肯定的評価90%	B	□授業公開を増やし、学校の取組を積極的に情報発信する。 □地域の文化や人に触れ合う機会を充実する。 □サミット委員への情報提供の機会を増やし、協力を求める。		

(A: 目標を上回った B: ほぼ目標どおり C: 目標を達成できなかった)

学校関係者評価を踏まえての改善点:

- 児童主体の探究的な授業の研究を進める必要があり、「聞く・話す」を中心とした主体的で対話的な学びができるように授業改善を目指していく。学力調査結果から見られる学力が未定着な児童個々への対応を、放課後学習や帯タイムを活用して組織的に丁寧に進めていく。
- QUアンケートや児童アンケートの結果から見られる課題をしっかりと分析し、児童一人一人の理解に努め個に応じた手だてを講じる。
- 地域人材や地域教材の授業活用をさらに進め、カリキュラムマネジメントを推進することにより、教育効果を高める。地域を巻き込んだ防災教育の在り方を模索する。